

第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	伊勢市立城田小学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	社会を生き抜く力 ～地域と本気で関わる城田の子～

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1、活動に至る経緯

本校は、特別支援学級2学級と普通学級12学級、合わせて14学級全校児童283名の、中規模校である。校区は、宮川中流域西側に位置し、東方には伊勢平野に連なる朝熊山地が展望でき、田園が広がる緑豊かな地域である。学校のすぐ東側には汗谷川が流れ、自然のなかで昆虫や鳥などの生き物に親しむことや、農作物の成長の様子を身近に見たりすることができる。地域は農業従事者が多く米づくりが主な産業であるが、高齢化が進んでいる。安全ボランティアの学校行事への協力などで、地域の人々に、学校に関わってもらうことも多く、地域と学校が一体となった活動ができる環境にある。地域の組織としてはまちづくり協議会をはじめ、保護者や地域の方々が、田植え・稲刈り、さつま芋や、大豆の苗植えや、ブドウ畑の見学や収穫体験、などを様々な方法で協力してくれている。しかし、その活動は一過的な体験で終わり、継続的な活動や主体的に他者と関わり学習を深めようとする力は十分ではない。主体的な学びに結びつけ、学んだことが将来の社会や今の日常生活の中で、どう生かすことができるかを、地域での様々な体験学習や農業の機械化や流通などを学ぶことで、地域の良さや、地域で暮らし働く方々の尊さを実感させたい。

2、活動・研究の目的（ねらい）

地域の「人」・「もの」・「こと」との関りを生かした学校づくりを重視し、体験・交流・課題の発信などを通して主体的・対話的で深い学び、ともに高め合う子どもを育てる。子どもたちが学校や地域のことを深く知り、地域のよさや課題について気づき、発信することで地域を愛し、地域に誇りを持ち、生涯を通して地域に貢献できる人材を育てるとともに、これからの社会がどんなに変化しても、予測困難になっても自分の描く将来を自分の地域をモデルとして、社会で生き抜く力を実現させたい。

3、活動内容

(1) 地域の人とのかかわりを生かした農業体験学習や食育

- ・田植えと稲刈り
収穫したお米で地域の方へのお礼の会。
- ・ぶどう畑の見学とぶどう狩り
- ・地域の方の協力による、野菜作り、さつま芋植え、さつま芋掘り
地域のシェフさんと共同して、さつま芋を使ったスイーツづくり



(2) 地域の「もの」自然を生かした環境学習

- ・汗谷川の観察と調査



(3) 栽培・花づくり活動と生態系の研究

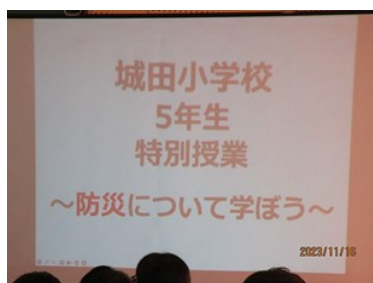
- ・花壇に花の栽培
花壇にフジバカマを植えて、アサキマダラ（蝶）を呼び込む取組



(4) 地域と作る安全マップ

- ・自宅付近、通学路の危険箇所をマップに落とし込む作業（保護者、地域の方の協力）

・危険箇所の確定と種類を統括し分かりやすく、提示できる安全マップの作製。(チラシを全児童に配布)
 5年生はまちづくり協議会の皆様にもご協力をいただき、安全安心な地域づくりについて取り組み、(株) IKUSA の八重さんをお招きして、防災ワークショップを行った。世界で起きるマグニチュード6以上の大地震が日本で起きる可能性は20%と地震列島であるお話に、児童も驚いていた。地震が起きる仕組み、これから来る南海トラフ地震にどう備えるか、日用品を災害にどう活用できるのかを常に意識することの大切さを学習した。日用品を活用した実践発表や、グループ討議などを深めることができた。今後、災害は来てほしくありませんが、もしもの災害時には城田地区の防災リーダーとして活躍してくれる学年の育成につながった。



(5) 1年生鍵盤ハーモニカ講習会

1年生は地域の講師先生をお招きして、鍵盤ハーモニカ講習会を行った。鍵盤ハーモニカの基本的な使い方から、消防車、救急車のサイレンや、お馴染みの曲を楽しく聞き、児童にとって音楽がより一層楽しく感じる時間となった。最後は講師先生から、ピアノでは弾けず、ピアニカでしか弾けない曲や、今はやりの曲をフルートで披露をしていただいた。



(6) 皇學館大学教育学部 群読出前講座

1年生と4年生は、地元の皇學館大学教育学部国語科教育ゼミの学生の出前授業を受け、群読とはどんなものかを実体験することができた。4年生は「すいせんのラッパ」を教材として、群読の工夫を各班で話し合い、主体的・対話的で深い学びの学習につながった。又、班で群読の役割分担と練習を繰り返すことで、どのグループも抑揚をつけて楽しそうに群読の発表ができ、一人ひとりが達成感を味わうことができた。さらに、学習のめあて「群読を知り仲間と協力して取り組もう！」を達成することができた。



4、子どもたちへの効果

<成果>

- (1)子どもたちが地域の人とのかかわりを生かした農業体験学習や地域の「もの」自然を生かした環境学習をすることで、地域に学び地域に発信する力が向上した。
- (2)取材や資料づくり活動による児童の表現力・発信力・言語能力が向上した。
- (3)学校からの発信による地域の活性化と連携強化を促すことができた。

<課題>

さらに様々な方向からのアプローチを行い、子どもたちが地域のことをさらに深く知り、地域について本気で関わることで、自信をもって地域を語れるように育成したい。又いろいろな発信方法を工夫し、子どもたちの学びがさらなる地域住民の活性化につながる研究としたい。

